

I 今回の改訂の基本的な考え方

- 教育基本法・学校教育法などを踏まえ、これまでの我が国の学校教育の実践・蓄積を活かし、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成。子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視。
- 知識及び技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視する現行学習指導要領の枠組みや内容を維持した上で知識の理解の質をさらに高め確かな学力を育成。
- 先行する特別教科化など道徳教育の充実や体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実により、豊かな心や健やかな体を育成。

II 社会に開かれた教育課程と、学力における三点の柱

1 社会に開かれた教育課程

- ① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。
- ② これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。
- ③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

2 「何ができるようになるか」を明確化

- 知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むため、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していけるよう、全ての教科等を
 - ① 知識（各教科等の特質に応じた「見方・考え方」）及び技能、
 - ② 思考力、判断力、表現力等、
 - ③ 学びに向かう力、人間性等の3つの柱で再整理。

(例)理科：①身の回りの生物、太陽と地面の様子についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付け、②追究する中で差異点や共通点を基に問題を見いだしたり表現したりする力を養い、③生物を愛護する態度や主体的に問題解決しようとする態度を培う。

III 評価の観点及び評価方法

観 点	趣 旨	評 価 方 法
知 識 ・ 技 能	① 各教科の学習過程の中で、個別の知識・技能の習得状況について評価する。 ② それら（習得した知識・技能）を既存の知識と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活場面で活用できる程度に概念を理解したり、技能を習得したりできているかを評価する。	◇ ペーパーテストだけではなく、児童が文章で説明したり、教科の特質に応じて観察・実験したり、式やグラフで表現したりする場面を設けるなど、多様な方法を取り入れて評価する。 ※ ペーパーテストによる評価では、知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮する。
思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	○ 各教科の知識・技能を活用して課題を解決するために、必要な思考力、判断力、表現力を身に付けているかを評価する。	◇ ペーパーテストのみならず、論述やレポート作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現などの多様な活動を取り入れたり、それを集めたポートフォリオを活用したりする。
主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	① 知識・技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みをしようとする、 ② 「①」の取り組みの中で自らの学習を調整しようとする—の二つの側面を評価する。	◇ ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や児童による自己評価や相互評価等の状況等から評価する。 ※ 「感性、思いやり」などは、個人内評価により見取る。

観点別学習状況：学習指導要領に示す目標や内容に照らして、その実現状況を、「十分満足できる」、「おおむね満足できる」、「努力を要する」と判断されるものの、3段階で評価を記入する。

IV 「主体的・対話的で深い学び」からの授業改善

- ☆ **主体的な学び**：学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次の学習に繋げる「主体的な学び」が実現できているか。
- ☆ **対話的な学び**：子供同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自らの考えを広げ深める「対話的な学び」ができているか。
- ☆ **深い学び**：各教科等で習得した知識や考え方を活用した、「見方・考え方」を働かせて、学習対象と深く関わり、問題を発見・解決したり、自己の考えを形成したり、思いを基に構想・創造したりする「深い学び」ができているか。

V カリキュラム・マネジメントの確立

- 1 教科等の目標や内容を見渡し、特に学習の基盤となる資質・能力である「論理的思考力・表現力」と、現代的な諸課題に対応して求められる「昭島市民科」における資質・能力の育成のために、教科等横断的な学習を充実する。
- 2 「主体的・対話的で深い学び」の充実には単元など数コマ程度の授業のまとまりの中で、習得・活用・探究のバランスを工夫する。
- 3 そのため、学校全体として、教育内容や時間の適切な配分、必要な人的・物的体制の確保、実施状況に基づく改善などを通して、教育課程に基づく教育活動の質を向上させ、学習を効果的に実施するカリキュラム・マネジメントを確立する。

組織的・計画的な教育課程のPDCAサイクル化により教育活動の質的向上を図る！